NPO法人
性と子どものエンパワメント関西
NEWS LETTER
第29号
2009.11.26

目　次

田上時子のエッセイ　今、「政治」が面白い …… 1
特集　山本麗子さんインタビュー　NPOの進む道 …… 2～3
活動報告　スター・ペアレンティング　ファシリテーター教育実習 …… 4
セクシュアル・ハラスメント講座 …… 4
まつばら学校エンパワメント事業 …… 5
CAPセンターJAPANの正会員に …… 5
エルコラム⑦ …… 5
リレーエッセイ　近藤裕子／川崎眞美 …… 6
講座インフォメーション …… 7
会員の紹介・入会のおさそい …… 8
編集後記 …… 8

田上時子のエッセイ

今、「政治」が面白い

今、「政治」が面白い。

8月30日の衆院選の結果は自民党の大敗、民主党の圧勝。ついに政権交代。歴史の転換期に遭遇して高揚感を覚える。

日本の政治は政権交代が必要だと思っていた。同じ政党が長期的に政権を持っているとどうしても政治家と官僚と業界の癒着が強くなる。これを問題視したのが細川政権だった。政党同士が政策を競うようにするため、選挙制度改革があった。そして政権交代が可能な政党を作る必要があった。そのためにできた政党が民主党だといってもいい。

社会の閉塞感に堪えられなくなった国民が変化を求めて民主党に入れたという声が多い。共感すると同時に、マニフェスト的には、保守とリベラルの政策の対立に国民はリベラルに票を入れたということではないかと考える。

鳩山内閣では、女性登用に積極的との情報があった。結果的には大臣が2名、副大臣が1名、政務官が1名の就任であった。量的には不満だが、質的には満足している。福島瑞穂と辻元清美。ともに信頼する仲間である。

法務大臣、千葉景子の名前を初めて知ったのは、被害女性十数名が民事訴訟を起こした1981年の「富士見産婦人科病院事件」の担当弁護士ということであった。これは1980年に所沢市にあった富士見産婦人科病院の医師らが、故意に不必要な手術を行い健全な臓器を摘出してしまうなど、いわゆる「乱診乱療」を繰り返したとされる事件だ。

民主党は選択的夫婦別姓の導入や婚外子差別の撤廃などの民法改正をめざしてきたが、その中心で推進してきたのが千葉氏である。

文部科学大臣政務官に就任した高井美穂氏は38歳。2005年、第2子出産のために通常国会に欠席届を提出して「産休」に入って話題になった。

日本人はせっかちなところがあり、早期の成果を期待するが、やっと叶った政権交代である。失敗もミスもあろうが、情報開示と説明を丁寧にすることで、国民の理解を得ればよい。少なくとも4年間は寛容に見守り応援する国民でありたいと思う。安定した政権運営を望む。